

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

令和元年度農作物病虫害発生予察情報について

令和元年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

**令和元年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号**

令和元年10月2日  
徳島県

1 病虫害名

ツマジロクサヨトウ

*Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)

2 発生地域

名西郡石井町

3 発生の経過

国内での侵入が確認され、本県においても侵入警戒を行っていたツマジロクサヨトウについて、石井町に設置したフェロモントラップに本種疑義成虫が誘殺されているのを令和元年9月26日に発見した(図1)。

農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県未発生のツマジロクサヨトウであることが9月30日に確認された。

本虫は、令和元年7月に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において、国内で初めて確認され、その後、九州の各県をはじめとする18県の飼料用トウモロコシやスイートコーン、ソルガムなどで発生が認められている。また、四国では愛媛県及び高知県で確認されている。

なお、同定後、フェロモントラップ周辺における農作物の被害及び本種幼虫の寄生について調査した結果、いずれも確認されていない。

4 本種の特徴

(1)形態

成虫は、開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみに前翅中央部に白斑を持つ(図2)。終齢幼虫は体長約40mmで頭部の複眼と前額の境界に淡色の逆Y字状の模様及び尾部の黒色斑点が特徴である(図3)。卵は、寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

(2)生態

南北アメリカ大陸の熱帯から亜熱帯を原産とする南方系の害虫であり、暖地に適応する。熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは、毎年夏季に成虫が移動・分散し生息域を拡大するが、暖地を除く地域では越冬することができない。

### (3)被害

幼虫が植物の茎，葉，花及び果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し，成長すると加害しながら分散する。新葉の葉鞘部を多く食害し，加害部には多量の糞が散在する。

### (4)寄主植物

文献では，トウモロコシやイネなどのイネ科植物のほか，アブラナ科，ナス科，ウリ科など幅広い作物を加害するといわれている。

なお，これまでのところ，国内では飼料用トウモロコシ，スイートコーン，ソルガム，サトウキビでのみ発生が確認されている。

## 5 防除上の注意等

(1)生育初期に幼虫の食害を受けた場合，被害が大きくなると考えられるため，圃場巡回を行い早期発見に努める。

(2)本虫と疑われる幼虫を発見した場合には，速やかに病虫害防除所に連絡する。

(3)県は，本虫による加害が確認された場合，植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし，国との協議により，加害が確認された作物ごとに選定した薬剤による散布の指導を行う。

(4)薬剤散布が困難な場合は，加害作物を早期に刈り取るとともに，幼虫の分散を防ぐため，圃場内での残渣のすき込みを行う。



図1 誘殺された雄成虫



図2 成虫（左：雄，右：雌）農林水産省HPより



図3 幼虫 農林水産省HPより